

北海道大学病院産科・周産母子センターに通院されていた患者さん
またはご家族の方へ
(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 一絨毛膜双胎妊娠における双胎間輸血症候群の発症に及ぼす影響に関する
後方視的検討

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 秋田 弘俊

[研究機関名・研究責任名・所属]

北海道大学病院産科・周産母子センター 森川 守 副センター長・准教授

[研究の目的]

双胎間輸血症候群は一絨毛膜双胎妊娠の約 10%に発症する妊娠合併症ですが、その発症には子宮収縮が誘因の 1 つであり子宮収縮抑制を行うと一絨毛膜双胎妊娠において双胎間輸血症候群の発症を予防できるとの報告もあります。2020 年以降、新型コロナ感染予防のため、それ以前の妊婦さんに比べ自宅で過ごす時間が長くなり、安静が保たれる妊婦さんも増えています。したがって、2020 年以降、一絨毛膜双胎妊娠における双胎間輸血症候群の発症率は低下している可能性があります。この発症率の変化とその変化に影響を及ぼした要因を調査します。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2008 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日までの 13 年間で当科に通院した妊婦のうち、当院で妊娠・分娩管理した一絨毛膜双胎妊娠の妊婦さん

○利用するカルテ情報

1. 母体所見：

① 母体所見：

A) 背景情報：年齢、既往分娩の有無、非妊時体重ならびに BMI、分娩前体重ならびに BMI、妊娠中の体重増加量、基礎疾患（糖尿病、本態性高血圧、自己免疫疾患、など）、産科学的合併症（妊娠高血圧症候群など）、分娩週数、分娩様式（帝王切開術施行の有無）、分娩となった経緯（理由、帝王切開の適応）など

B) 双胎間輸血症候群：発症の有無、発症した妊娠週数、発症した時点での臨床進行期、胎児治療の有無、発症から分娩までの期間、分娩した時点での臨床進行期、など

2. 胎児・新生児所見：

出生時体重、性別、新生児仮死の有無、死亡時期、死亡原因、胎児機能不全の有無、など

3. 胎盤所見：

双胎間輸血症候群の原因となり得る胎盤表面の吻合血管の有無

[研究実施期間]

実施許可日～2021年12月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

＊上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院 産科・周産母子センター

担当医師 森川 守

電話 011-706-5678(外来)/5789(病棟)/5941(医局) FAX 011-706-7711